

【平成30年度 第1回港区史編さん委員会 会議録 要旨】

平成30年8月16日（木）

午後6時30分～7時30分

区役所4階 庁議室

【委員】

出席者：井奥成彦委員長 田中秀司副委員長 岩淵令治委員 都倉武之委員 唐木富士子委員
小林靖彦委員 野尻三重子委員 渡邊仁久委員 小柳津明委員 青木康平委員
有賀謙二委員 星川邦昭委員 北本治委員

欠席者：小林元子委員

遅刻者：なし

【事務局】 総務部総務課

【傍聴者】 なし

次 第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 区史の発行部数について
 - (2) 区史及び巻の名称について
 - (3) 刊行概要について
- 3 その他
- 4 閉会

配付資料

- 資料1 区史の発行部数について
資料1-2 区史の配付先一覧
資料2 区史及び巻の名称について
資料3 刊行概要
資料3-2 区史刊本のイメージ
参考資料1 平成30年度「(仮称)新・港区史」編さんスケジュール
参考資料2 区史の完成イメージ
参考資料3 港区史編さん委員会委員名簿
参考資料4 監修者名簿
参考資料5 執筆者名簿

【決定事項】

- ・発行部数については、原案のとおり、通史編は1,000部、図説版は1,800部とする。
- ・区史の名称は、原案のとおり、「港区史」、図説版の名称は「図説 港区の歴史」とする。
- ・刊行概要の判型（原始・古代・中世～現代編、自然編、図説版）、発行部数、組体裁、字数、刊行年月、執筆要項については、原案どおりとする。
ただし、装丁及び資料編の判型は、引き続き検討する。
- ・資料2の2図説版の名称の理由について、港区史と棲み分けるという表現が分かりづらいため、区史を身近に感じ、親しめるものという表現に修正する。

議事要旨

1 開会

参考資料1を用いて、今年度のスケジュールの説明。

6/5に監修者会議、7/5に編さん推進委員会を開催。次回の編さん委員会は年度末を予定しており、来年度は刊行年のため、それに向けての確認をしていただくような内容を予定している。

2 議題

(1) 区史の発行部数について

資料1及び1-2について説明。

委員：図説版の配付先の町会・自治会については、町会の会館がないところは町会長宅に行く形になると、皆がそれを見に行く機会は非常に少ない。クリニックの待合室などの方が多くの人目に留まるのではないか。

事務局：今回全編10冊を超える冊数になり、個人宅に置いていただくのも大変で、町会員の皆さんの目に触れる機会もないかと思う。多くの地域の方々に区史を知っていただきたいという思いでカウントしたが、具体的な配付先については、町会・自治会の状況も踏まえ、それぞれの実情をお聞きしながら配付していきたいと考えている。

委員長：他になければ、区史の発行部数については了承ということで良いか。

<異議なし>

議題(1)については、原案のとおり決定する。

(2) 区史及び巻の名称について

資料2について説明。

委員長：区史の名称については、監修者会議では「新港区史」となったが、その後の区史編さん推進委員会で、シンプルに「港区史」としたほうが良いとなった。個人的には、監修者会議の時には「新港区史」という提案をしたが、「港区史」のほうが良いという意見が大勢であれば、それに私は従う。

委員：最近、自治体史のタイトルに「新」が付いているものも出ている。資料に記載のサンプルは恣意的な気がする。発行年月日が違うので、違う本だという認識は図書館の情報で調べることができるが、過去に同じタイトルのものがあることはやや混乱をきたすというのが監修者会議の意見であり、私は支持していた。ただし、それは「港区史」を刊行するたびに名前を変えなければいけないという話になり、前の区史が古いものになることは、それはそれで良い。

委員：今回は巻が12で、通史編とか通巻版とか、タイトルプラス何というものが、基本的にセットになり、たどり着けるであろうということを考えると、「港区史」でも良いと思う。確かに混乱をきたしやすいということについては、私も同意見である。

委員：港区は全国にたくさんあるので、「東京都港区史」にしてはどうか。

委員：「港区史(新刊)」というのはどうか。

委員長：今挙がっているのは「港区史」、監修者会議で決まった「新港区史」、「東京都港区史」、「港区史(新刊)」の4つの案があるがいかか。現時点で、皆の考えを伺いたい。

<「港区史」7名、「新港区史」3名、「東京都港区史」2名、港区史(新刊)1名という結果>

委員長：大勢に従い、原案どおり「港区史」で進めていきたい。その他に、巻の名称についての意見はないか。図説版の名称については「図説 港区の歴史」という案だが、これで良いか。

委員：内容は良いが、図説版の名称付けの理由で、「棲み分けで」と書かれている表現が分かりにくい。過去の委員会では、区史がしっかり歴史を踏まえて責任を持って対応しているのに対し、図説は、写真を多用して分かりやすくというところで、同様の「区史」ではないということであった。そこをより分かりやすく明確になるように、ここの表現に追加していただきたい。

委員長：その点、修正をお願いします。図説版についても原案どおりということで良いか。

<異議なし>

議題（２）については、原案のとおり決定する。

（３）刊行概要について

資料３及び３－２について説明。

委員：内容のあるものが出れば、これだけのボリュームや配付数も今回随分検討いただいたのでありがたい。装丁については、執筆する側としてそれほどこだわりはなく、区の問題かと思う。函（箱）があるかないかは別として、通常はハードカバーである。Web中心で、多くの人を読んで劣化しても身近な手に取りやすいもののほうが良いという考え方でそういう選択をするのであれば、それもあろうと思う。ただ、資料編が5センチとなっており、今、製本技術が進んでいるとはいえ絶対割れると思うので、その辺を含めて検討いただいたほうが良いのではないか。

事務局：劣化の心配は確かにあると思うが、今回、全編書き起こしにし、全巻十何冊になったことや、Webと共用ということもあるので、ハードカバーで遠い存在のような感じで受け止められるよりは、ソフトカバーで手に取りやすいものということと、経費的な部分も若干考慮したもので提案をさせていただいた。

委員：装丁は重要視されるのか。多くの自治体史が並ぶ中でソフトカバーであると、内容がよくても粗末な感じになるのか。

委員：専門の研究者としては、体裁でコストがかかって冊数・部数が減るよりも、冊数・部数が出るほうがありがたい。ただし、特に資料編は割れる可能性があるので、ソフトカバーで冊数が増やせないのであれば、A4にしたほうが良いのではないか。

委員：ソフトカバーだと本が自立しないということも気がかりである。私も中身がしっかりできていればという気持ちはある。後で最終完成版を作るけれども、まず世に出して批評を受けるという場合に作る「稿本」のときに、こういう柔らかい体裁の本を出すことがあると思う。そういうもののような印象を受ける。

委員：どのくらいの値段の差があるのか。

事務局：2倍ぐらいになる。

委員：あとは、函を付けるか付けないか。最近、函はなく、仙台市史の通史編は函なしで、ハードカバーの上にカバーをかぶせている。研究者の立場で言えば、部数が多く出たほうがうれしいが、本当にソフトカバーが良いか。

委員：見本を見たら、ハードカバーが良いと思う。値段がそんなに違うとは思わなかった。

委員：もう少ししっかりしたソフトカバーというのはないのか。

委員長：仙台市史のように、ハードで周りにカバーをしているというのは、そういう意味では中間くらいの割と親しみやすいものになる。

委員：ハードカバーだと書棚に鎮座し、決して読まれないということもある。折衷案があれば良い。

事務局：他の事例も調べて、一度保留にさせていただき、改めて提案する。

委員：近世では、編さんを進める中で、割と大判の図版の資料が出てきている。判型は決定したら変

更できないことで通史編については納得しているが、資料編をA4版にするのは難しいか。前の議論でWeb上に公開するから良いという話はあったが、画質を落とすなら掲載を許可するという条件を付けるところも多い。A5版では集まった資料をうまく紹介できず残念であり、可能性を検討してほしい。

事務局：この資料編の関係については一度持ち帰らせていただく。頁数も含めて、サイズの検討ができればと思うので、ご意見を頂戴しながら検討していく。

委員：A4の刊行イメージについて、Web上で文字検索などをするとき、その順番というのは、2段構成で横に飛ぶということはないか。

事務局：それはない。

委員長：刊行概要については一部、今後検討ということで、その他については了承ということで良いか。
<異議なし>

議題（3）について、装丁及び資料編の判型以外については、原案のとおり決定する。

装丁及び資料編の判型は引き続き検討する。

3 その他

参考資料2の説明。

行政年表のデモンストレーション（Webの特性を活かした年表と関連資料の見え方について）

委員：この年表の紐付け作業は、どの過程で誰がやるのか。

事務局：全編刊行に併せて紐付けすることになる。主に区が支援事業者の力を借りながら、区民により興味を持っていただけるような内容を検討し、構築していく。

委員：以前からデジタル版と我々が編さんする「港区史」との関係性についてはやりとりがあり、別物ということで、棲み分けがされている。年表の紐付けについて、記事や叙述の選び方には、かなり研究的な部分と関わる場所があり、単なる目次ではない気がする。我々が監修や紐付けをするというのは非常に大変なので、我々が監修するものと別と考えて良いか。

事務局：行政年表については別物と考えている。ただ、まとめたものについて、執筆に活用していただけるものは執筆者に提供させていただく。今日はデジタル版の拡張性についてご覧いただいた。今後は、編さん委員会の中で映像等を見ていただきながらコンセプトをご理解いただき進めていきたい。

委員：時代を越えて、テーマで横断的に通時的に見られるというのは良い。あとはどれぐらい執筆者側とキャッチボールをするのか。

委員長：これも今後、相談しながら進めていく。

委員：「港区史」については「港区史」ということで監修の先生方にお任せをする部分も多く、それを固定することが大事だと思う。その上に立って、広く区民の方々にどう伝えていくかというツールの一つとして、紐付けの方法は一定の考え方に基づいて区はやっていく必要がある。監修者のご意見を伺いながら作り上げていけば、落ち着くところに落ち着くと思う。「港区史」の内容は監修者等の執筆を大事にして1つ作り上げるという姿勢が非常に大事であり、その上に立って、次の、拡張の方針を打ち立てていく2段ロケットの考え方で、物事の整理をさせていただいたほうが良い。その点についてはご理解いただきたい。

4 閉会